

2026年度 埼玉医科大学短期大学
看護学科 総合型選抜 追加日程
小 論 文

問題用紙 1枚

無断転載・複製を禁ず

次の「江戸人が使った『死んだら御免』』という文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「郷に入っては郷に従え」ということわざがあります。私たちにはなじみ深い言葉であり、そうやって暮らすことで円滑な社会を築いてきたのです。

戦前の動乱期と戦後の混乱期に世界中へと渡り、苦労の末に現地に溶け込んだ日本人は大勢いますし、今でもその子孫たちが世界中にいます。もちろん海外だけではなく、自分が生まれ育った故郷を離れて違う土地で暮らす時でも、その土地の習慣や作法を学び、節度ある行動をとるのが日本人です。

また、国内においては、昔から、農村には「結」、町には「講」という仕組みがありました。「結」は農作業における相互扶助の仕組みです。農家は何かと忙しいので、農家同士が互いに協力し合うというものです。繁忙期に労力を提供するだけでなく、資材や資金などを融通し合う仕組みもありました。

「講」も結と同じく相互扶助の仕組みですが、もともと講はお坊さんたちの研究会や勉強会が発祥とされます。ですから仏教や民族宗教など信仰を同じくする人々の団体を指すこともあれば、町の組合・寄合に近い組織を単に講と呼ぶこともあります。これらはすべて「お互いさま」の精神で成り立っているものであり、同時に「おかげさま」の精神が発露した結果でもあるのです。

そんな精神構造を最も端的に具現化しているのが「あいさつ」です。家庭や生活地域や職場で「こんにちは」「おはようございます」「こんばんは」といった基本的なあいさつを交わすことで、私たちは「お互いに今日も生きていますね」とか「おかげさまで今日も元気ですよ」と確認し合っているのです。

あいさつが大事な理由はここに 있습니다。皆、お天道さまの下で、一緒に暮らしている仲間なのです。地域に溶け込むことやあいさつを交わすことは、私たち日本人が最も大切にしてきた歴史的な習慣であり、一つの文化です。

また、江戸の庶民から生まれた作法「江戸思草」は、相手を思いやる気持ちを行動として表している代表例です。思草の思は思慮、草は行為を示します。雨降り時に互いにぶつからないよう配慮する「傘かしげ」、歩いている時の「肩引き」、混んでいる席を詰め合う「こぶし腰浮かせ」、すれ違う者同士が交わす「会釈の眼差し」、公共の場での行動マナーには、お互いさまの精神があふれています。

もちろん「江戸思草」は現代にも生きています。例えば電話をかける時には相手と対面している心で応対するので、感謝の気持ちを表現する場合、受話器を持ったまま見えない相手にお辞儀をしているのではないのでしょうか。本人が無意識の内に発している感謝の念が、相手に飛んで伝わっています。(中略)

ちなみに江戸の人々は口約束を重視しました。そこで生まれた言葉が「死んだら御免」。(一文省略) 御免は謝罪であり、相手の許可を求める言葉でもあります。証拠がないとか紙に書かれていないからといった理由で、現代人はいとも簡単に口約束を反故にしますが、口からいったん出た言葉には大きな責任があるのです。それは下手な約束、失礼な言葉を決して口にすべきではないという意味であり、「言霊」を重要視してきた先人たちの叡知です。言葉や行動には、その国の歴史がそのまま出ます。

(矢作直樹『おかげさまで生きる』による 一部改変)

問1 「郷に入っては郷に従え」の意味を文中の言葉を用いて答えよ。また、そのことに対する筆者の考えを「仲間」という言葉を用いて述べ、あわせて150字以内にまとめなさい。

問2 「死んだら御免」は、どういう内容の言葉と思われるか。また、その内容について、あなたは思うか。あわせて300字以内で述べなさい。